

馭戎慨言

上之下



いひあしせしんしてぞ。このる表仁とがこせきん。い
ば表仁といもみどりにかうりもやどりつ。いとどし
天皇を軽しんめりて。しぬまうりあひひをる。さうり
のま王ととと。むとくあひひをひまひん
なり。

冬朔ハ。まてくろのや元か礼わくしらひ。まてくろの
く。しんげふ不ま平りんと。うとまぬく。え
む杜佐が通典ハ。由是遂絶といつり。うとまてれたの
けまうよ。久之更附新羅使者上書といつり。舊唐書ハ
くしんを。貞観二十二年ぬく。やう。まき礼ハ。いし

んく。つり。水徽初其王孝徳即位。改
元曰白雉。獻虎魄大如斗。礪若五外器。時新羅為
高麗百濟所暴。高宗賜璽書令出兵援新羅。い
水徽ハ。高宗ハ。年号。その元年ハ。
雞波官守オニハノミヤニクシ。孝徳天皇の伊代。白雉元年。より。考紀

使小山上吉士長舟。副使小乙上吉士駒。学問僧
百三十一人。俱乗一船。又大使大山下高田首根麻
呂。副使小乙上掃部遠小麻呂。学問僧オニハノミヤニクシ。並一
二十人。俱乗一船。秋七月。被遣大唐使人。高田根麻

建ししむひい。さそ百濟を悉くをばらひしんがし
つり。すししし軍を遣りて。新羅を賊と
し我しを。官軍不勝。

近江大津宮ツルニニヤミヤ伊豆イツ天皇スミヤマトの仁代二年九月イノト百濟ハツシハツシ

願しむひい。郭勢惊といふもの使に
て多し。善隣國寶記。海外志記を引く。伊
をさす。此使に月し封る。伊多時。
智辨しむひい。書しむひい。書しむひい。
のひい。有將軍牒書一函并獻物として。

智辨しむひい。九月。津守連吉祥伊岐連博
天皇德僧智辨らふ作。流業を宰しむひい。
伊しむひい。今見客等未狀者。非是天子使人。
百濟鎮持私使。亦復所費文牒。送上執事私時。是
使人不得入國書。亦不上朝廷。故客等自事者。畧以
言辭。妻上見しむひい。十一月。牒書のく
一をばらひし。日本鎮西。大將軍。牒在百
濟國。大唐行軍總管使人朝散大夫郭勢惊等。在
覽來牒。尋省意趣。既非天子使。又無天子書。唯是總
管使。乃為執事。牒牒是私意。唯須如奏人。非公使。

使朝臣仲滿慕中國之風留不去改姓名為朝衡
 留京師五十年還留不去天寶十二年又遣使真
 上元中權衡為左散騎常侍鎮南都護といつて
 又遣使貢といゆくをことごとくおけ仲滿がま
 かりしにぬしおを新を去お復朝といつた又遣
 使貢といゆくをことごとくおけ仲滿がま
 廢帝おゆ代天平宝字五年十月仲真人石伴を遣唐大
 使し副使ををと定りしにぬしおを
 るしのおをみごもくをきしけ

光仁天皇の御世寶龜六年六月お依伯宿祢今毛人
 遣唐大使し同七年四月おのりし
 風あしつてつりく同八年四月お又京を
 病おくりて又えまし副使し
 石根お作て船のり節をおて大使のま
 王おあひとの冬お三の船おの
 船を破して石根

遣之と申せり。さうしてをりてふ。やのくし唐王乃
使をわし過らひきりし。二韓をどねと同
し例。かゝるし。まゝある。まゝに筑紫よりまゝまでの
わら。たのふとねとせひか。うと。うとがま。うま。い。ま。ゆ。の
し。結。り。せ。さ。あ。い。う。う。い。ま。う。ま。も。あ。う
し。う。り。又。この使とせ。み。ぜ。を。が。し。して。王。が。ま。を
を。り。き。る。村。の。大。詔。入。唐。使。上。書。朕。見。之。云。く。ま。し。し。ゆ
答。は。い。り。か。河。北。詔。客。等。比。在。館。中。旅。情。愁。鬱。所。以
聊。設。宴。饗。食。加。授。位。階。兼。賜。祿。物。卿。等。宜。知。之。と。り。り。
又。ま。う。つ。ま。う。し。う。う。う。う。の。初。め。臣。等。多。幸。得。謁。天

闕。今。乍。拜。辞。不。勝。悵。戀。と。り。り。後。く。く。く。く。ハ。續
紀。し。あ。う。う。う。う。う。う。う。唐。書。ハ。建。中。元。年。使。者。真
人。興。能。獻。方。物。と。り。り。建。中。が。ぬ。王。德。宗。が。年。号。と。の。元
年。ハ。寶。龜。十。一。年。し。り。り。ん。と。は。な。の。は。使。の。し。こ
か。し。う。し。し。年。と。二。年。も。あ。い。又。し。ゆ。使。の。を。し。次。は
延。曆。の。な。と。ま。い。ひ。し。り。り。次。し。り

平安宮タヒラノ少マヤニアラシクシヤ守シヨ桓ヒ天皇乃ゆ世延曆廿年八月ツキ。藤原朝臣

葛野麻呂を遣唐大使ツキして。同廿二年四月ツキハ。船出フナデせ
かど。浪所ありく。おやぶとほと。えゆ。り。り。は。り。り。で。
ま。さ。れ。年。廿。二。年。ハ。な。り。り。は。り。り。と。の。な。ぬ。王。德

元世年... 免勢空海... 高階真人来... 逸勢をバ... 平城天皇... 嵯峨天皇... 淳和天皇... 延暦...

一冊... 戒王... 大令... 延暦...

毛をりうらふとみとまきくゆりま候とこりやをまこまき
て。のや^恭わ^順りしりくありしりまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
く日中國王かどくのうたやけりまきまきまきまきまき
けいひけびま。かくてわらゆかきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

仁明天皇の御云。康和元年正月。藤原於常嗣を遣唐
持節大使しりまきまきまきまきまきまきまきまき
例の波所ありて。松ざとまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
かくて同六年八月。大使を太宰府より又まきまき
まきまき副使小野於於まきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

嵯峨、太上天皇、いりりゆりて。隱岐國よりまきまきまき
六年八月。大使をまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

鳥羽天皇の御代。元永元年。宋國より孫俊明鄭清かど
 といふ人々一けりて。書をもちて。も河内。河東
 夷之長。實惟日本之邦。人崇謙遜之風。地富珍奇之
 産。曩修方貢。端順明時。隔淵弥年。久缺來王之義。遭
 逢熙旦。宜敢事大之誠。みどい。つり。け。い。の例は
 ふ。つりや。い。と。博士。と。を。り。て。う。じ。う。の。例
 たり。し。ど。沙。着。ん。ま。く。て。や。い。た。か。ふ。ふ。も。ど
 たり。ん。と。い。の。例。を。ど。む。し。う。を。ど。か。く。
 とも。び。し。く。と。り。く。も。い。や。ふ。か。ひ。の。一。か。ふ。も。
 とも。ど。か。り。や。又。

高倉天皇の御世。永長二年。宋國より明州刺史かよ
 といふ人々一けりて。書をもちて。物をもちて。し。と
 あり。その書は。う。と。例。の。わ。や。り。し。だ。大。外
 記。清。原。頼。業。う。や。入。り。て。う。し。と。ん。と。も。ど。と。
 高。倉。き。く。し。り。を。も。ち。て。交。り。ひ。し。り。も。ど。と。
 たり。近。し。し。の。栗。山。氏。の。書。を。い。う。り。も。ど。と。
 國。の。書。を。も。ち。て。い。う。り。も。ど。と。
 とも。ど。と。し。り。も。ど。と。の。玉。王。だ。い。し。
 へ。り。の。く。の。わ。や。り。も。ど。と。
 天皇。れ。の。書。を。も。ち。て。い。う。り。も。ど。と。

天皇をおきなすりて。彼をと天子とせんん。又はいづれか
く。むかひら

天皇をあこりなすり。又はいづれか。天皇は二ツの
日ありさふありく。地は二人れ王はかり。又はいづれか
此の志をいふもゆむむむむむ。又はいづれか
三國とつの。時をと。劉備はかかくと。又はいづれか
世は蜀をきむむ。魏はままくく。漢はつつと
けけけけ。天子とせむ。又はいづれか
人の蜀を天子といひひ。又はいづれか
南と國はああららふふ。又はいづれか。南はい

胡虜とわかかす。北はたたくく。南はたたくく。又はいづれか
天子とせむ。又はいづれか。天子とせむ。又はいづれか
天子とせむ。又はいづれか。天子とせむ。又はいづれか

天子とせむ。又はいづれか。天子とせむ。又はいづれか
天子とせむ。又はいづれか。天子とせむ。又はいづれか
天子とせむ。又はいづれか。天子とせむ。又はいづれか
天子とせむ。又はいづれか。天子とせむ。又はいづれか

お玉が... ち... 主... 漢... 唐... 日本... 詩... 風... 人...

の... 主... 漢... 唐... 日本... 詩... 風... 人...

夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし
 夕陽の影をながし

部	文學
番号	157 (=)
初年月日	彦根中學圖書部蔵

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

夕陽の影をながし

